

Topic

海外研修生に聞く

本学では、海外の教育機関と連携して学术交流や研修を推進し、活発な国際交流活動を企画・実施しています。今回は、マレーシアとオーストラリアから海外研修生として本学を訪れ、約3週間の日程で栄養学について学んでいる二人の研修生に、研究の成果や日本の印象などについて研修期間中の指導教員でもある香川雅春准教授(栄養科学研究所副所長)がお伺いしました。



Kaitlin Brennan
(ケイトリン・ブレナン)さん

オーストラリア・ブリスベン¹の学術提携校クイーンズランド工科大学(QUT)の管理栄養士課程学部4年生。



Ang Yeow Nyin
(アン・ヨウニン)さん

香川雅春准教授が外部指導教員として関わるマレーシア国民大学(UKM)で栄養学を学ぶ大学院生。

「実践」という栄大のコンセプトに感動しました(アン・ヨウニンさん)

香川雅春准教授 お二人は日本は初めてですか？ 女子栄養大学での生活はいかがですか？

ケイトリン・ブレナン 以前、友人とスキーで来日したことはありますが、今回のようにじっくり腰を落ち着けて研修するのは初めてです。研修の合間に日本の生活習慣や文化にも触れることができて、とても視野が広がりました。

アン・ヨウニン 私は初来日です。マレーシアとの文化や生活習慣の違いに戸惑うこともあります。新鮮な気持ちで研修生活を楽しんでいます。

香川 特に印象に残っているのはどんな点ですか？

ブレナン クイーンズランド工科大学は総合大学で、学生の人数も多く国籍も多様です。それに比べ、栄大は少人数で落ち着いて学べる場所がいいですね。また、時間割がきっちり決まっているのもオーストラリアの大学には見られない点です。

ヨウニン マレーシア国民大学のにぎやかさとは違い、キャンパスや周辺環境が静かなのが気に入りました。学生の皆さんはとても真面目で勉強熱心ですね。そして、お弁当持参の学生が多いのが印象的です。健康的でよい習慣だと思います。

香川 研修期間中に友人はできましたか？ また、異国の地での一人暮らしで困ったことなどありませんでしたか？

ヨウニン 来日前に栄大の大学院生と知り合っていて、心強かったです。そして、授業の一環で参加したウォーキングツアーで親しく話せる友人ができました。「若葉ウォーク」などショッピングも便利で、快適に暮らしています。私は中国語も分かるので、道路標識などの漢字表記もおおよそ判読でき、日常生活で困ることはほとんどありません。

ブレナン キャンパス近くのホテル住まいですが、駅からホテルまでに小さなショップがたくさんあって便利なおことに驚いています。私もウォーキングツアーに参加し、英語が堪能な何人かの学生と親しくなりました。

香川 ウォーキングツアーは金子嘉徳教授の共通特論[アウトドア]という授業ですね。どこへ行ったのですか？



「若葉祭」では茶道を体験し、初めての抹茶の味に感激！



共通特論[アウトドア]のフィールドワークで、「飯能新緑ツアーデーマーチ」に参加。10kmのウォーキングツアーで多峰主山の自然を満喫した。



●聞き手●香川雅春(写真右端)

栄養科学研究所 副所長、准教授。2013年からオーストラリア・クイーンズランド工科大学 運動と栄養科学部客員教員。2014年からタイ・マヒドン大学 公衆衛生学部兼任教授。

とうのすやま

ヨウニン 飯能市役所をスタートし多峰主山を往復する10kmのコースです。十数人の栄大生のほかに地元の子供たちもたくさん参加して、景色を見ながらみんなで楽しく散策しました。

ブレナン ウォーキングツアーもそうですが、「若葉祭」にもたくさんの方々が参加するなど、地域交流が活発なことに驚いています。

ヨウニン 地域に根差した大学だということが印象的です。

香川 最後にお二人の3週間の研修の成果と、本学への希望や提言などがありましたら、ぜひお聞かせください。

ブレナン 私は卒業研究のために、日本とオーストラリアの食物リテラシーを比較するデータ収集を行っています。香川先生をはじめ多くの先生方のご指導と、学生の皆さんのご協力でもデータも順調に収集でき、満足しています。海外へ出て、ほかの国のことや人のことを知ることができ、また「食と栄養」という専門を持った特別な大学で学べたことが、貴重な経験になりました。栄大生の皆さんは全体的にシャイな印象がありますが、もっと積極的に海外へ出て、他国の文化や食生活を体験すれば、きっと身につくことが多いと思います。

ヨウニン 青少年期の身体組成や代謝についてのデータを収集し論文を仕上げ、学会誌に発表する予定です。滞在中に投稿論文を1本書き上げる予定で、香川先生のご指導でもう少しで完成します。私は研修第一期生ですが、こうした研修の機会をいただいたことに感謝しています。そして、これをきっかけに日本とマレーシアの学生の交換が活発なることを期待しています。「実践」という栄大のコンセプトには、とても感動しました。帰国してからも忘れずに肝に銘じておきたいと思っています。

2015年6月、坂戸キャンパスにて

栄大生も海外に出て、国際感覚を磨いてほしい(ケイトリン・ブレナンさん)